

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201768		
法人名	社会福祉法人 札幌蒼生会		
事業所名	グループホーム栄町		
所在地	札幌市東区北46条東16丁目1-18		
自己評価作成日	2019年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月、行事など写真付きの手紙や健康状態を報告する手紙を家族に送付しており、なかなか面会に来られない家族の方にも生活の様子や変化を知っていただけるように努めている。
利用者1人1人の自分らしさを大切にし、尊厳を持った生き方に対して様々な面からアプローチし、支援を行っている。
装飾・行事・食事などで季節を感じ、楽しんでいただけるように努めている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	hlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0170201768-008
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	平成31年2月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営母体である札幌蒼生会は、高齢者福祉事業を幅広く展開し、2棟目のグループホームとして開設し15年目を迎えて2ユニットの事業所で、地下鉄やバス停からも近く、近隣には大型スーパーや郵便局、公園、小学校などが点在し、交通至便で生活環境に恵まれています。4階建てビルは改造型で、2～3階をグループホームとし、1階にはデイサービスと居宅介護事業所、4階には小規模多機能事業所が併設され、それぞれの機能を有効に活用し、季節行事や災害対策などで協働関係を構築し、利用者、職員も行き来して交流を重ねています。法人は職員の育成に意欲的で、全部署合同の研修を年6回実施しています。職員は、各々職種者と連携を図り、情報を共有し、知識や技術の習得に励むなど、帰属意識を高めてケアに臨んでいます。更に、グループホーム理念は、毎年4月の合同研修会にて理念の実践を振り返り、見直しを行い、常にケアサービスの根幹を明確にして、職員は共通認識を図り、利用者本位の支援に取り組んでいます。重度化傾向にある利用者の外出支援が十分に対応できない状況時には、家庭的な雰囲気の中で、その人なりの残存能力を大切に、体操やゲームなどで力の発揮を促したり、手作りおやつやデザートバイキングでは利用者を選択して頂く場面を作るなど、自己決定や希望の表出に努め、利用者が喜ぶ季節行事も多岐にわたり企画して、楽しみ多い生活の提供に熱心に取り組んでいます。医療連携が整備され、24時間オンコール体制で、医師、看護師、職員がチームとなって一人ひとりの体調の変化に敏感に対応し、日々の健康管理から利用者、家族の望む看取りまで支援し、家族の信頼を深めています。管理者は、更なる質向上と、安定した良質なケアサービスの実践を求めて、改めて現状に即したケアマニュアルの作成を検討しています。また、町内会の高齢化に伴い、地域益踊りの開催が厳しい現状を汲み取り、併設事業所と協働で事業所主催の益踊りを検討しているなど、「益踊り」が利用者と住民を繋ぐ場として、地域交流や連携に取り組む、地域に開かれた運営のもと、活動・発展している事業所となっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が話し合っって理念を作り、掲示して共有実践している。	法人理念を基本理念とし、新年度会議にて系列の事業所と共に、グループホームとしての理念を毎年策定しています。更に、理念を具現化した行動目標も掲げ、ケアの指標とし、新人研修で意義を説明し、日々の申し送り等で、職員の意識統一に繋げています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会行事に参加したり、学生の訪問や、行事にボランティアの方々に来ていただいて交流している。	事業所の季節行事には教会の子供達の楽器演奏、フラダンス、音楽鑑賞、蕎麦打ち等のボランティアや小・中学生の職業体験などの訪問を受け、利用者の生活に潤いを齎しています。町内の清掃活動への職員参加や回覧板による月刊誌の配布にて、地域とは良好な関係性を築いています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事へ参加したり、広報誌を回覧板で回していただき、実践を通じた情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営状況や行事等について報告したり意見や質問をいただき活かすようにしている。また、普段提供している食事を召し上がっていただいたり、避難訓練を見学していただいて理解を得るようにしている。	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は、事業所運営、利用者の状況、職員体制、事故発生状況、医療連携、災害対策など様々な課題について協議しています。身体拘束等の適正化に関する委員会を会議内開催として事業所の透明性を図り、質の確保に努めています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	連絡会義などに出席したり、必要に応じて随時連絡を取り、協力関係を築くように努めている。	市や区の担当者とは、管理者連絡会議や各種報告時、書類提出時などで、情報や意見交換が行われています。事業所の困難事例等の相談事は電話でやり取りするなど行政とは協力体制が構築されています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで身体拘束について理解し、防止に取り組んでいる。防犯のため、玄関の施錠については行っている。	身体拘束廃止適正化の指針を定め、委員会では運営推進会議内で開催し、研修も行い、身体拘束の内容や弊害を学び理解を深め、適切なケアの実践に取り組んでいます。センサーマット使用や玄関の施錠については、家族と十分話し合い同意を得ています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修などで日々行っているケアを見直し、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用している方がいる。また、今後利用すると思われる方もいるので、他の方にも必要性が出てきた場合には速やかに利用できるように支援していきたい。学ぶ機会が少ないので、勉強会などで理解を深めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面や口頭で説明して、理解・納得が得られるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪・電話連絡などの際に意見・要望を聴き、運営に反映できるように努めている。	季節行事には多くの家族の訪問を受け、利用者との関係継続に活かされています。訪問時には要望を聞き取り、改善を図り、運営に反映させています。各居室担当職員が、毎月個別に利用者の健康状態や暮らしの様子などを写真を添えて手紙で報告し、看護師からの情報も加わり、家族から感謝されています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで反映できるように意見を話す機会がある。	会議を始め、日常的にも施設長、管理者、リーダー、職員間のコミュニケーションは良好で、現場での意見が反映され易い環境が整っています。職員は毎年、個人目標を設定し、達成度を自己評価する機会として、年2回管理者との個人面談が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持てるように目標設定をしている。人員体制などについて、少しずつではあるが整備を目指している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修の参加機会があり参加者は会議や勉強会で報告し、他の職員への周知して知識・技術の習得に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は連絡会義などで同業者と交流する機会がある。職員は機会は少ないが外部研修参加時に同業者と交流がある。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族から情報を収集したり本人の思いを傾聴し汲み取りながら、安心して生活できるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時の情報交換で家族に困っていることや不安な事・要望等を伺い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	どんな支援が必要なのか、できること・できないことや好きなことを見極め、優先順位を考慮しながら必要な支援ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生きがいを考え、一緒にできることなどを行って共に生活する関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事に参加していただいたり、面会時や手紙などで情報を共有して希望を聴きながら、共に支援をするように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会があったり、お墓参りに行ったりして馴染み関係の継続ができている。	親族や知人の訪問時には、居室でゆっくりして頂ける様に、お茶を持て成すなど環境を整えています。馴染みの店での買い物や外食、墓参り、初詣など職員や家族の支援を受けて、本人の望む習慣の継続に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用同士の相性や性格をできるだけ見極めて、利用者同士が関わりをスムーズにできるような職員が声掛けをしたり、仲介している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後は、あまり関わる機会がないが、必要な場合は相談や支援ができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを傾聴し、職員間で情報共有をしながら、できるだけ本人の希望に沿えるように努めている。	利用者に寄り添う中で、言葉や行動、表情など多面的視野で意向の理解に努めています。利用者の思いや自己決定を大切にしたいケアを心がけ、手作りおやつやデザートバイキング時には、好きな物を選択する機会を設けるなど、希望を引き出せる声掛けを行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や家族から生活歴や生活環境を伺ったり、本人との会話で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録・申し送りや日々の関わりを通して一人ひとりの現状を理解するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や申し送りなどで話し合いを行い、ケア内容や希望や意向を検討している。変化に早めに対応できるように話し合いを重ねていきたい。	居室担当職員が中心となり、3ヵ月毎にアセスメント、モニタリングを行い、利用者や家族の要望、医療従事者の意見を踏まえた暫定プランを作成し、職員間で協議を行い、介護支援専門員が纏めています。介護計画は6ヵ月毎に見直され、特変時は必要に応じて見直しをかけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の職員の気づきや状況変化なども記録し、情報共有をしながら実践に活かしている。より現状に即した対応ができるように更に意見交換をしていきたい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスや小規模多機能の設備を利用し、柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望や心身の状態に合わせて町内行事に参加したり、近所の公園などに出掛けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診があり、その他の受診が必要な場合には本人や家族と相談しながら対応し、それぞれに合った病院受診ができるよう支援している。	全利用者が24時間連絡体制の協力往診医を主治医とし、月2回の定期診察を受けています。専門医への通院は、殆どが職員が対応しています。協力医療機関からの看護師が週1回訪問し、医師と連携を図り、健康管理に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で相談や助言を受けたり、体調に変化があったときなども電話で相談し指示を受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には文書や電話で情報交換をしたり、病院関係者や家族と話し合いを行ったりして関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合の指針を説明しており、その後は変化に応じて本人や家族の意思確認や話し合いを行っている。重度化してもその人らしく生活していただけるように努めている。	医療連携及び看取り体制が整備され、対応指針は契約時に説明し同意を得ています。状態変化時には再度家族の意思確認を行い、主治医、看護師、家族、職員と方針を共有し、意向に沿った支援にチームケアで臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や救命講習で対応を学んだり、看護師に相談・助言を受けて実践に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、定期的に避難訓練を実施しており、会議の際にも地域との協力体制について確認したり、避難方法を検討している。近隣の施設と協力体制を築いている。	今年度は昨年8月に火災・夜間想定避難訓練を、地域住民の参加を得て、ビル内の4事業所合同で実施しています。次回は3月に昼間想定避難訓練を予定しています。近隣の介護施設とは応援協定を締結しています。救急救命講習を受け、胆振東部地震を教訓に備蓄品の充実を図っています。	避難訓練は重ねる毎に課題や疑問が抽出されますので、火災に加え、水害、地震等の自然災害や利用者の様々な居場所(トイレ・浴室・居室・居間)を想定したシミュレーションや避難訓練の実施と、地域住民の具体的な協力体制への働きかけを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、理解力なども考慮しながら、一人ひとりに合わせた声掛けをしている。	人格尊重の理念の基、職員はマナー研修を受け、明るく、優しい言葉かけで接しています。排泄誘導や入浴介助では、本人が不快にならない様、常に注意して対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を訴えたり、自己決定や選択がしやすい声掛けを工夫し、対応できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思確認をしながら、それぞれの希望やペースに沿った過ごし方ができるように心掛けていますが、安全確保のため、希望に沿うのが難しいことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みや季節に合わせた服を着ていただいたり、定期的に訪問理容を受けている。また、行事や外出の時には気分転換できるような服などに変化をつけて支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方とは、一緒に準備や片付けをしている。行事ではおやつバイキングや出張寿司など、自分の好きな物を選んで食べる機会も作っている。また、食べ物で季節感を楽しんでいただけるように努めている。	栄養管理された献立と食材納入を利用し、職員が調理し、身体状況に応じて食事形態も変更しています。誕生日や季節行事の特別食に手作りおやつ、ケータリングや出前も取りいれて、笑顔に繋がる食事を工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状況を把握し、食べやすくなるように個々に合わせてミキサー食や刻み食、トロミ、ゼリーなどの形態を変えて対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々に合わせて声掛けや介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンや習慣を理解し、個々に合わせた声掛けや介助を行っている。	個別に排泄パターンを把握し、特に朝食後の時間誘導や仕草、表情から察して声をかけ、排泄機能や感覚が維持出来る様に、トイレでの排泄を支援しています。日中・夜間・身体状況に即して衛生用品の使用を詳しく検討し、気持ち良さを優先し、快適に過ごせる工夫に取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や水分摂取を促したり、腹部マッサージなどで予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分や体調を確認しながら、可能な限り希望に沿ったタイミングで入浴できるように支援している。脱衣所の気温やお湯の温度も体調や好みに合わせて調整している。	入浴は、二人介助や同性介助等の要望を取り入れて、週2回を目安に支援しています。利用者により、一番風呂や好みの湯温、1対1での会話を楽しむ機会として対応する等ゆったり感を大切にしています。併設事業所に設置された、大浴場やリフト入浴を活用したり、体調によっては、清拭やドライシャンプーなどで、可能な限りの清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望に合わせて、休息できるよう支援している。また、気持ち良く眠れるように明るさや寝具の調整をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容の理解し、変更等があった時には体調の変化に気をつけている。飲みやすいようにトロミをつけたり個々に合わせた服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みやできること、心身の状況などを考慮し、それぞれが楽しめる役割や活動をしていただけるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な時は、買い物や散歩に出掛けている。家族とお墓参りなどに出掛けている方もいる。	天候の良い時期は、近隣の公園や事業所の中庭を散歩しています。個別対応で、回転寿司に出かけたり、大型スーパーでの買い物や外食など楽しんでます。正月には初詣でに、夏には墓参り、秋には百合が原公園など家族の支援も受け乍ら、戸外に出て五感を刺激し気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりのできる事を見極めて支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は電話をかけられるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔の保持に努め、季節が感じられる装飾をして気分良く過ごしていただけるように工夫している。気温や湿度の調整を随時している。	改造型の事業所なので、各ユニットの間取りに違いはありますが、悪臭も無く、温・湿度にも配慮し、清潔が保たれています。居間兼食堂は、窓からの採光も良く、食卓、ソファ、テレビがバランス良く配置されています。各ユニットにはバルコニーに繋がるサンルームが有り、廊下の空間を上手く活用して、テレビやソファを配置し、利用者が思い思いに寛げる空間を作り上げています。観葉植物や利用者の作品、写真などが飾られ、温かみを感じられる空間となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースは限られているが、ソファを分けて配置したり、廊下に椅子を置いたりして、気分合った場所で過ごせるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や好みの物・写真などを置いて、居心地良く過ごせるように工夫をしている。	12畳ほどの居室には、洗面化粧台にクローゼットや棚が備え付けられ、収納と衣替えに便利な作りとなっています。馴染みの家具や調度品、生活用品を持ち込み、家族写真や趣味の作品等は、棚を活用して自分らしく飾りつけています。利用者の心身状況の変化に伴い、安全に配慮した環境を整備するなど、落ち着いて過ごしてもらえる居室作りをサポートしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室前に表示をしたり、段差には目立つ色のテープを貼り、分かりやすくしている。理解できない方には声掛けなどを行い安全に努めている。		